

□□□実験デザイン特別演習（前期） 2008

巡回型都市リサーチプロジェクト ピクセルネスト・パヴィリオン
city switch project “pixel.nest pavilion”

- 授業教室 デザイン工学実習棟A 空間演習室
- 授業時間 木曜日 4-5 時限目
- 授業期間 2008年4月17日～7月24日 授業15回
- 担当教員 西澤高男
- 到達目標 都市巡回型 情報収集・展示パヴィリオンのアイデアとその製作
 - ・地域や都市を特色づけている要素の考察
 - ・上記の要素を収集・展示するための魅力ある方法を提案
 - ・決定した形態やシステムなどを成果品として製作
- 特記事項 シドニー工科大学との共同製作プロジェクトとする
- 評価方法 各フェイズにおけるプレゼンテーション内容、出席、授業態度、製作への貢献度を総合的に判断

□□授業概要

グローバリゼーションが世界を覆い尽くす倦怠感に拮抗するために、何が可能なのか。地域や都市を特徴づけている要素をワークショップによってリサーチし、収集・プレゼンテーションしてゆく国際的・学際的项目 “city switch” の一環として、移動型の情報収集・展示パヴィリオン「ピクセルネスト」“pixel.nest” 巡回展プロジェクトを展開します。

“city switch” は、シドニー大学・シドニー工科大学・東京大学との共同プロジェクトです。この夏から鳥根県出雲市を皮切りに巡回ツアーを開始し、その中で都市毎の特徴となる情報を収集、展示するパヴィリオン “pixel.nest” を、シドニー工科大学との協働で製作します。シドニー工科大学では昨年末にプロトタイプを作成していますが、今回の授業ではコンパクトに解体/移動する必要性を加味し、新しいものを製作します。提案内容については共に考察しますが、日本では主にソフトウェアやインターフェースに係わる部分を製作、シドニーにて製作してくる構造体とあわせて完成します。

この課題では地域や都市、さらにはそこに住む人々が持っている自らのアイデンティティとは何かを問い、それをモデル化して収集するパヴィリオンの製作を目的とします。ここ山形をはじめ世界各地に於いて、グローバルな都市間競争が激化する中で見直される固有の文化を相対化し価値化する良機となるような提案を期待します。

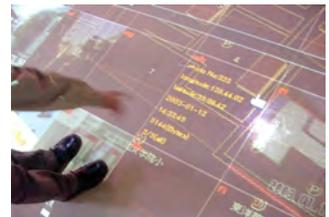
デジタルメディアを用いた画像や映像の記録、特徴のある言語などの録音、来訪者の表情や手描きの文字やスケッチなど参加型のコレクション、地場の産業や料理の収集など、手段は様々あると思います。楽しみながら収集、展示出来るようなアイデアを、共に考えてゆきます。

pixel.nest pavilion



2007年末シドニー工科大学にて製作したパヴィリオンのプロトタイプ

時空間ポエマー



2003年1月 THINK ZONEで行われたイベントの様子

Radikal Dialogue Project



ガザ地区を分断する壁をモチーフとした舞台装置のミニチュアのペーパーモデルをweb上で公開、オープンな製作、議論の場をつくりだした。

□□スケジュール

4/17 #1	プロジェクトキックオフ 14:00	空間演習室集合
phase1 5/1 #3または	リサーチ及び情報収集	
5/8 #4	レポート提出「アートとアイデンティティについて」	
phase2	プロジェクト提案製作	
5/30	レクチャー及びディスカッション	シドニー工科大学 Joanne Jacovich氏 東京大学 山代悟氏 (5/30にプレゼの可能性がある)
6/5 #8	プロジェクト案プレゼンテーション	
phase3 6/12 #9または	実施案決定 実施設計	
6/19 #10	実施設計完了	
phase4	製作作業開始	
7/24 #15	製作完了 パヴィリオン試験運用	

*パヴィリオンは鳥根県出雲市で8月第2週または第4週に行われる国際ワークショップで使用します。希望者はワークショップにも参加可能です。日時等変更の可能性有り、その他詳細なスケジュールについては、追って決定してゆきます。

□□参考プロジェクト

時空間ポエマー 本江正茂 http://www.myu.ac.jp/~motoe/text/zone_poemmer.html
GPSカメラ付きケータイを用い位置情報付きの写真を電子的に共有するデータベースを構築していくことで人々が時間と空間に潜む価値を発見し表現し共有する行為を支援、その可能性を拡張しようとするシステム

Radikal Dialogue Project 椿昇 <http://anj.or.jp/una/>
パレスチナのアルカサバシアターによる「占領下の物語II」舞台美術製作過程で発想されたプロジェクト。ガザ地区を隔てる壁をモチーフとし、そのミニチュアをwebで公開しオープンな製作・議論の場を展開した。

アパルトヘイト否(ノン)！国際美術展 北川フラム http://www.artfront.co.jp/jp/afg01_5.html
ユネスコを中心に組織された「アパルトヘイトに反対する美術展」の日本巡回展企画。81人154点の作品を収蔵する大型トラックにはシンボルとなる赤い大玉を内蔵し、日本各地194箇所を約500日かけて巡回した。

Project Phonethica 遠藤拓己+徳井直生 <http://www.phonethica.net>
音声言語を用いたweb検索エンジンを開発。これを核として、偶然的連鎖によって世界の多様性を発見し、その可能性を散種するためのプロジェクト。

“SAUVAGE” Responsive Environment <http://www.responsiveenvironment.com>
eurotour performance + workshop
人間の内なる力を顕在化させることをコンセプトとしたパフォーマンス。ヨーロッパツアーのために超軽量なインストール装置を開発。当地でホスピタリティを題材としたワークショップを開催、客席を現地製作。

アパルトヘイト否(ノン)！国際美術展



巡回先では赤い風船を打ち上げ、シンボルとして開催をアピールした。

Project Phonethica



“Ca va?”と“鯖”似た音を持つ言葉



音声言語の類似性による偶然的連鎖が、世界の様々な事象を導き出す鍵となる。

SAUVAGE” eurotour



航空機での輸送を前提とした軽量の舞台装置



現地でのワークショップの様子
ホスピタリティを題材として、空間と料理のワークショップを行い、客席とカフェを現地制作した。